

市川市 <sup>どうめ やつ</sup> 道免き谷津遺跡 第1地点

道免き谷津遺跡は市川市の北西部、国分川西岸に広がる低湿地遺跡です。7月の速報でお伝えした雷下遺跡の北西に隣接する一連の遺跡と考えられ、東西に約1km、南北に最大200mにも及ぶ広大な遺跡です。

今回の調査地点は、国指定史跡である堀之内貝塚南側の崖の下にあります。今年の1月から調査を開始し、水辺での作業に利用した足場跡、杭や道具を作るために加工(※)した木材(部材)などが見つかっています。また、現在の谷の深さは15mほどですが縄文時代は20m以上あり、斜面は谷底近くまで林に覆われていたことがわかりました。

※「加工」といっても、切ったり、割ったりなど単純なもの



調査区全景（調査開始直前）

低地では遺構のある面が地中の深いところにあるため、水分の多い軟らかい土を何メートルも掘り下げなくてはなりません。そこで、事前に鉄の板やコンクリートなどで「大きな底のない四角い箱」を地中に造り、周りの土が崩れないようにしてから調査を行います。

写真右側の斜面の上が堀之内貝塚です。平行に並んだ白い文字の書いてある鉄骨の下が「箱」の中となり、ここを掘り下げながら調査していきます。



斜面に生えた木を利用した足場  
(向かって左が谷側、右が山側)



木の跡 (幹が失われ、根の部分だけが残っている)



杭や部材の出土状況

現在の地表から約4m掘り下げた縄文時代後期前半(3,500年前)の地表です。